

「生死の苦悩とともに～臨床宗教師の活動とその現場より」

令和4年 11月 26日(土) 三川町 いろり火の里「なの花ホール」 13時30分～16時

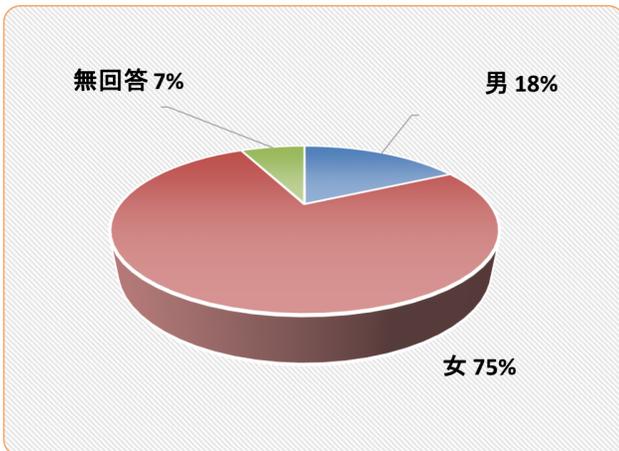
- ・ 「緩和ケア『庄内プロジェクト』が目指すこと」
鶴岡市立荘内病院 院長 鈴木 聡 氏
- ・ 講演：生死の苦悩とともに～臨床宗教師の活動とその現場より～
 - ・ 「臨床宗教師の概要について」
講師 日本臨床宗教師会 認定臨床宗教師 高橋 悦堂 氏
 - ・ 「米沢市立病院での実践報告」
講師 米沢市立病院 緩和ケアチーム 臨床宗教師 妻鳥 紘明 氏

《参加人数：192名 アンケート協力：153名》

<1. あなた自身について>

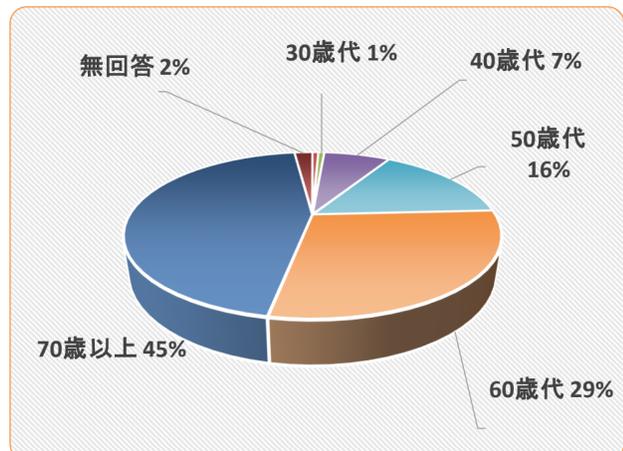
1-（1）性別

男性	27
女性	115
無回答	11
合計	153



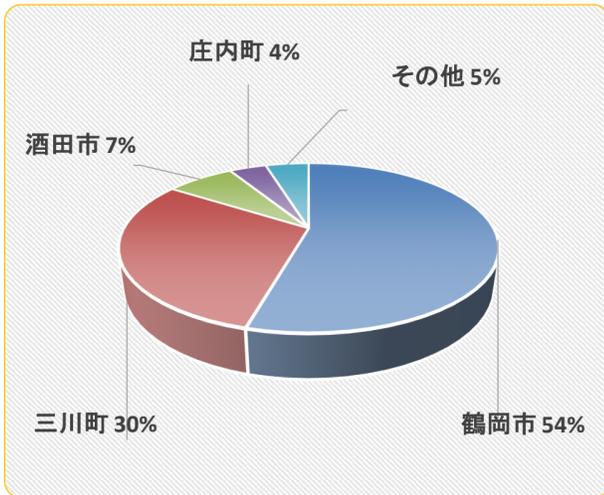
1-（2）年代

20歳未満	0
20代	1
30代	1
40代	11
50代	24
60代	44
70代以上	69
無回答	3
合計	153



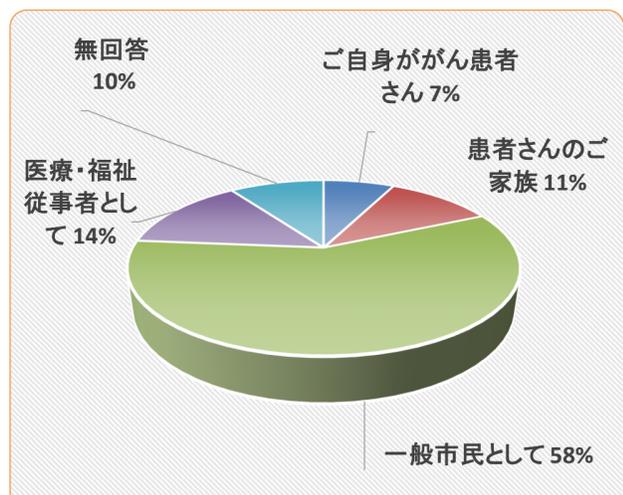
<2. あなたの住まいについて>

鶴岡市	83
三川町	46
酒田市	11
庄内町	6
その他	7
無回答	0
合計	153



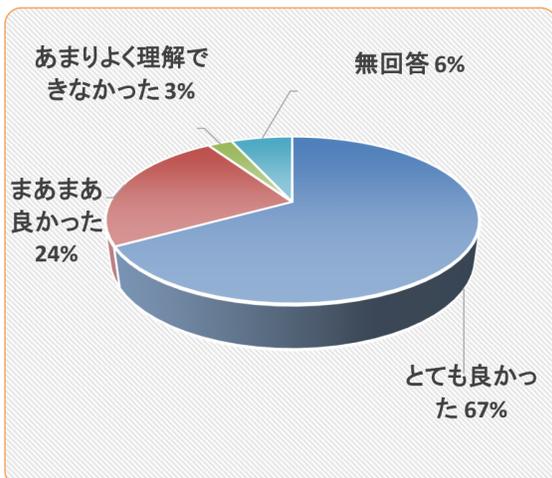
<3. あなたのお立場を教えてください。(複数回答可)>

ご自身ががん患者さん	12
患者さんのご家族	18
一般市民として	96
医療・介護・福祉従事者	23
無回答	16



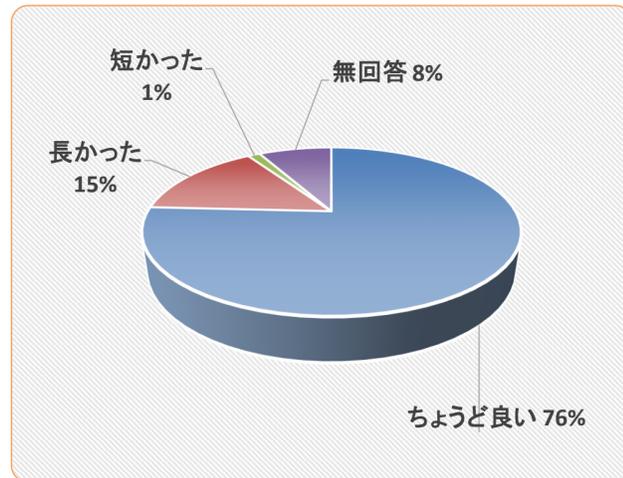
<4. 緩和ケア『庄内PJ』が目指すことについていかがでしたか。>

とても良かった	102
まあまあ良かった	37
あまりよく理解できなかった	4
ほとんど理解できなかった	0
無回答	10
合計	153



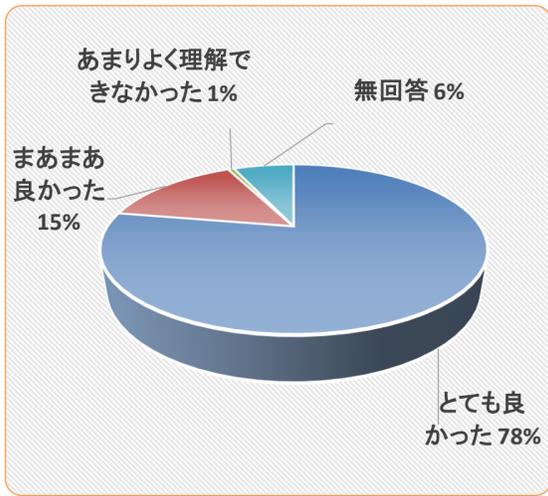
<5. 緩和ケア『庄内PJ』が目指すことの時間の長さは>

ちょうどよかった	116
長かった	23
短かった	2
無回答	12
合計	153



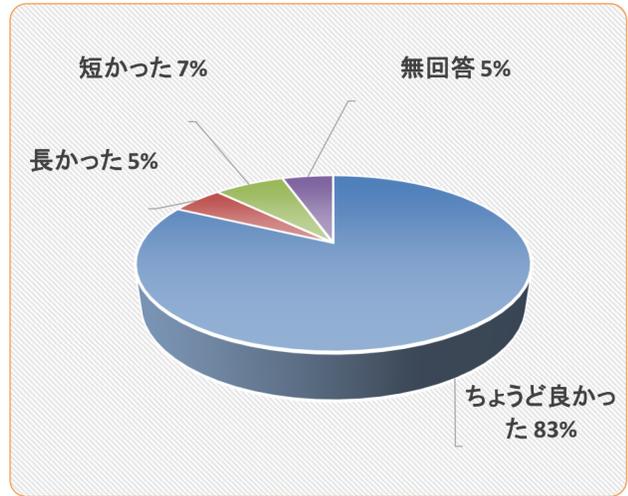
<6. 講演についてはどうでしたか>

とても良かった	119
まあまあ良かった	23
あまりよく理解できなかった	4
ほとんど理解	0
無回答	7
合計	153



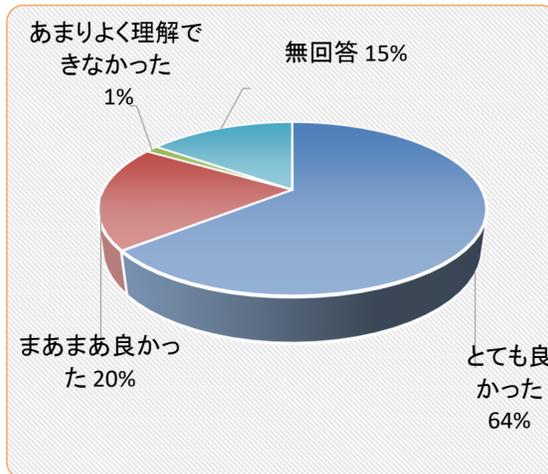
<7. 講演の時間の長さはどうでしたか。>

ちょうど良かった	126
長かった	8
短かった	11
無回答	8
合計	153



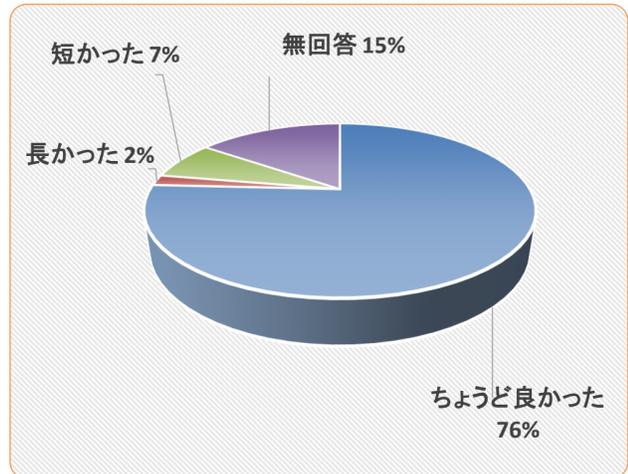
<8. 緩和ケアトークの内容はいかがでしたか>

とても良かった	98
まあまあ良かった	30
あまりよく理解できなかった	2
ほとんど理解できなかった	0
無回答	23
合計	153



<9. 緩和ケアトークの時間の長さはいかがでしたか>

ちょうど良かった	116
長かった	3
短かった	11
無回答	23
合計	153

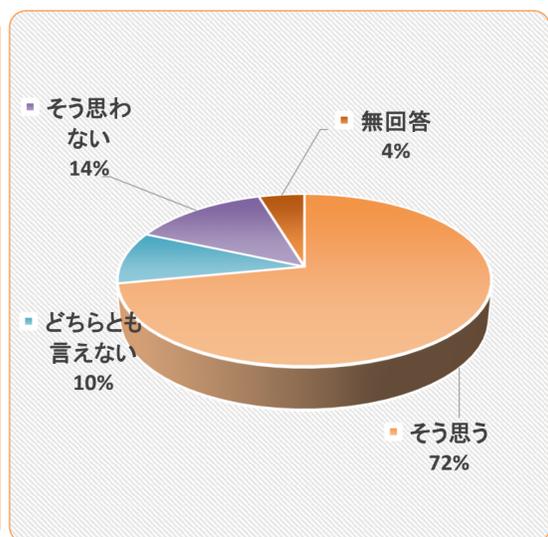
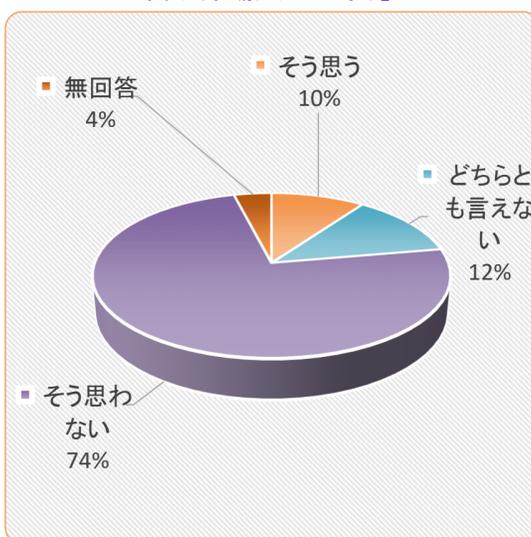
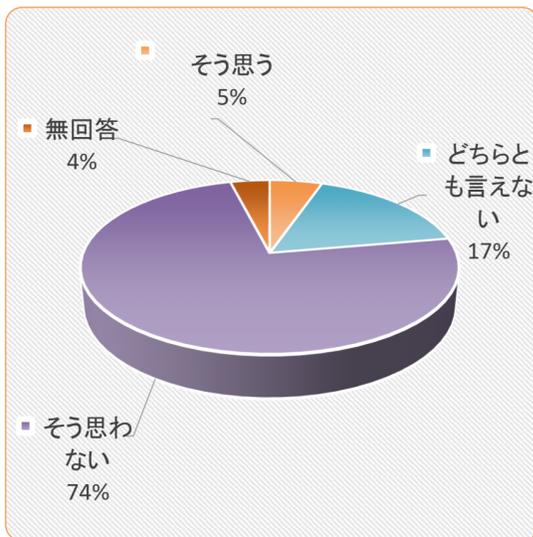


<10. 緩和ケアや在宅医療についてのあなたのイメージについてうかがいます。>

【①がんになっても病名を告知されたくない】

【②緩和ケアとは、末期の患者さんだけが受ける医療・ケアである】

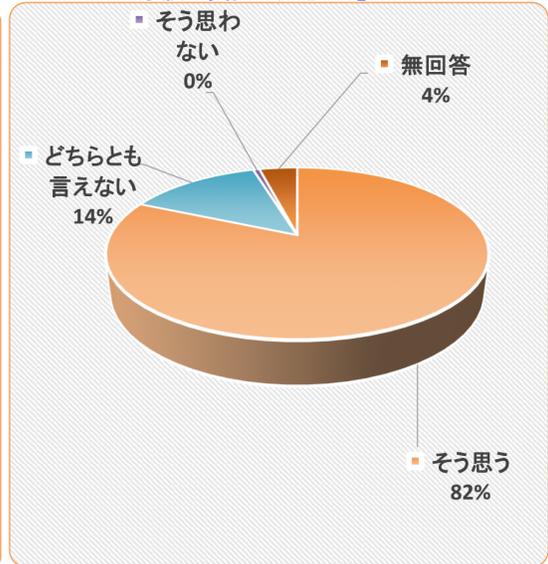
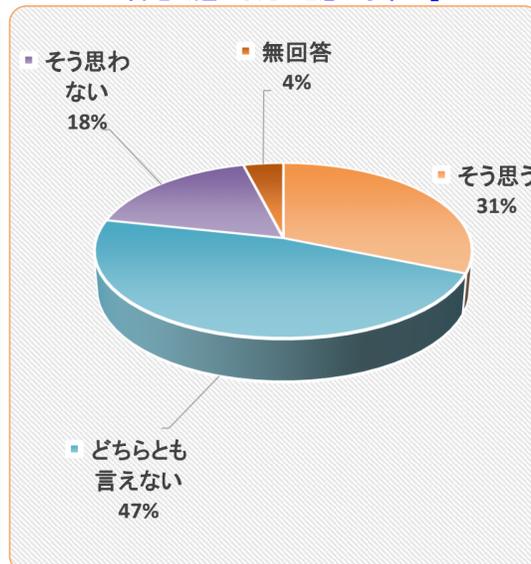
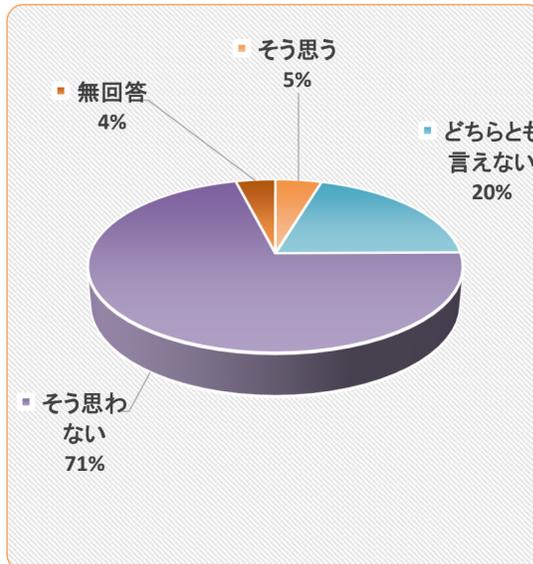
【緩和ケアとは、化学療法や放射線治療など、がんに対する治療と一緒にやるものである】



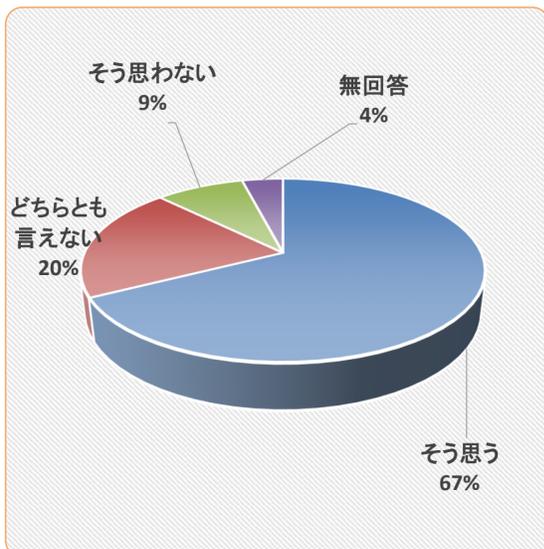
【④医療用麻薬を使用すると中毒になる】

【⑤あなたが、がんになったら、最期は自宅で過ごしたいと思いますか】

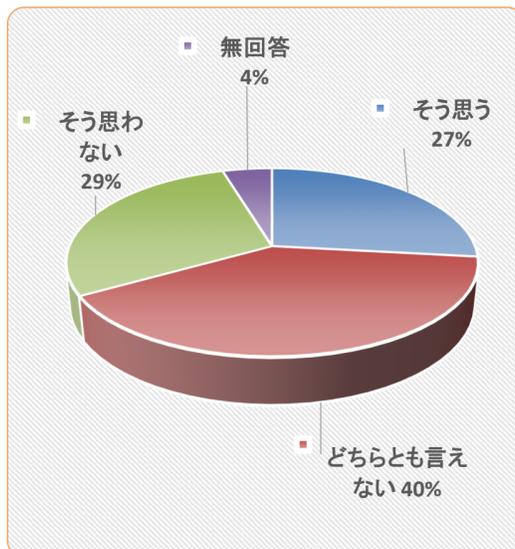
【⑥自宅で療養することは、介護してくれる家族に負担が大きい】



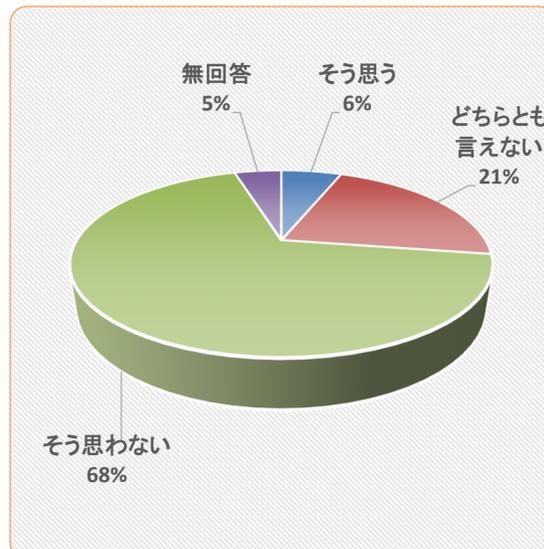
【⑦自宅では、症状が急に悪くなったとの対応が不安である】



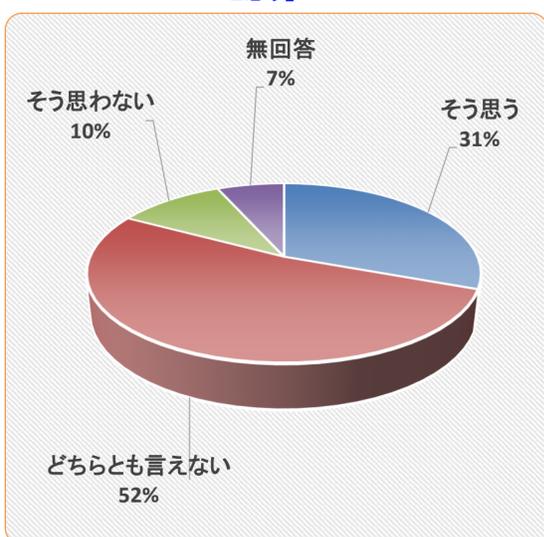
【⑧自宅では、十分に苦痛を和らげることが出来ない】



【自宅で最後を看取ることは家族が患者に十分な医療を与えていない事になると世間から思われる】



【⑩この地域では、がんになっても安心して過ごせると思う】



《ご意見・ご要望・ご感想等の自由記述》

- * 聴いて良かったと思います。涙が出てきました。自分だったら、主人だったら、息子だったら、嫁だったら、孫だったら・・・いろいろな思いがあります。こんな機会をもらい、ありがとうございました。
- * 大変勉強になりました。ありがとうございました。また機会がありましたら、参加させてください。
- * 高橋先生：本当にいい声ですね。聞きやすかった。
妻鳥先生：実践報告が身にしみました。最後に感謝、感謝の素晴らしい人生でしたね。
私も感謝の言葉で終わりたいと常に思っていました。（二度のがん）素晴らしい傾聴でしたね。（過去に少し学びましたので、難しいと思っていました）
- * 死に向かう方のつらさ、苦しさがお二人の先生のお話からすごく伝わってきました。傾聴の姿勢の中にはそこに発する言葉の大切さを感じます。あるいはそこに自分をどのように置くか、その大切さも感じます。
お坊様の存在が生から死への橋渡し、心配なくあちらに導いてくれる・・・という安心感もあるのではないかと思います。涙が何度も流れました。亡くなった主人、父、母、義母を思い出しました。ありがとうございました。来てよかったです。
- * 本当に素晴らしい講演でした。「傾聴」することの本当の意味を改めて考えさせられました。
鈴木先生のアンケートの集計もとてもわかりやすく勉強になりました。鶴岡市立の病院でもぜひ臨床宗教師を採用して欲しいと思いました。またぜひ、どこかで話をゆっくりお聞きしたいと思った、宗教師の先生のお話でした。とても貴重な時間をありがとうございました。
- * 4年前、60代半ばになったばかりの夫を突然の病で亡くしました。健康そのものでドックも毎年受けていたのに・・・と気づいて助けることのできなかつた自分を責めます。もし、闘病の期間のある病気だったらどんな時間を過ごしただろうと今更どうしようもないことをしばしば考えます。夫が待っているのはわかっているので、私は、死は恐れませんが、穏やかに逝きたいので、今日は大変勉強になりました。
- * とても貴重で大切なセミナーでした。健康な人々も若い者も聴いて欲しい現実のお話でした。きっと実人生の力になってくれると思います。ありがとうございました。合掌（ジャッジしないで聴き受ける力が大切ですね）
- * とても勉強になりました。ありがとうございました。
- * 映像の資料も欲しかった。臨床宗教師って利用するとお金はかかるの？緩和ケアを受けるための案内がわかりにくいと感じた。説明用画像が見えづらい。（小さいと思う）
- * スピリチュアルペインの対応に特化した話を聞いてみたい。

- *人は皆誰しも精神的な弱みを持っている。それを補強し、支援する薬や物はありませんが、宗教は心を支えるに極めて有効な力を発揮するのでしょうか。「臨床宗教師」という職種を知り、大変心強く思いながら拝聴しました。
- *終末期の身体の変化 ・親ががんになった時の子供の気持ち ・大切な人を亡くした方の遺族のケア
- *スクリーンが小さくて、文字が見にくかったので、大きくして欲しい。
- *現在、働き盛り、子育て世代の癌患者さん、その家族をサポートする会（みどりまち文庫内「折り鶴」）を立ち上げましたが、緩和ケアも大事ですが、その前の段階の雇用、治療費負担、病気と向き合いながらの生活全般の指導やトータル的なことを教えてくれる場所やそういう方いないという現状があり、そういったことへのトータルサポートできる人材の育成へも行政で考えていただきたい。患者さんからの意見経験のもとでフローチャート作成に着手しています。
- *アンケートの回答が、毎回同じ内容であり、それが活かされているとは正直疑問です。
- *当事者だけでなく家族も同じように苦しんでいるので、家族の為にも寄り添うことの大切さを知る方の話をきいてみたい。
- *山形県全般に自殺者が増えているとお聞きしております。健康な人はその自殺者に対して死を前に助けることが難しいともお聞きしております。その苦悩から助けられ尊い命を生きることが出来れば人間の命を生かすことも出来ます。苦しみから～歓喜への人生、どうすれば共生できるのでしょうか？私は生きる目的宗教の真を学んでいるところです。
- *大変ためになりました。今後も出席したいと思います。
- *心に残る講話ありがとうございました。今回の様な情報が広く伝わることを望みます。又の機会を期待しています。私は20年ほど前にパストラスケアの活動の経験があります。荘内病院の今後期待しています。
- *河北町 谷地出身の細谷Dr. (今後話を聴いてみたい講師)
- *病気は仕方ないですが、痛みに対する恐怖が1番です。その対応を望みます。
- *私自身（H11年）43歳、主人はその2年後（H12年）に胃がんの手術を致しました。幸い早期発見でした。発見してくださった中目医院長先生又荘内病院の前院長三科先生、鈴木先生、医療に係わって下さった方に感謝しております。手術の後は大変痛かったです。でも生きていて良かったと思いました。
- *宗教師の方にお話を聞いて頂ければ死に対しても緩和され、心の寄りどころになる大切な役割と心から思いました。少し話しは違いますが、全く知らない僧侶の方にその時思っていた事、それ迄に誰かに聞いてほしい事をお話ししたら頭の雲が晴れました。宗教師の皆様のご活動がどれだけ多くの人々を救っておられると思われたいです。有難うございました。
- *話を聴いてみたい講師 玄侑宗久様（僧侶・作家） 曾野綾子様（作家）「死への不安を軽減させる生き方とは」生き方が好きなので是非お話しを聞きたいです。
- *とてもよい会でした。
- *目に見えないところに本当の大切なものがあるように感じました。
- *義母（93才）夫（74才）を看取りました。最後には2人とも延命に（胃瘻）に頼ってしまいました。家族として今でもこの事が2人にとってどんな気持ちだったか多々思う事がありました。やがて迎える自分の事考えさせられた一日でした。
- *6、70年前まではあたり前に行われていた在宅での看取り（希望の場所）病院死があたり前となり生活の延長上にあった死が、遠いものになってしまった。在宅でも安心して看取ることができるということを是非多くの方に知っていただくためには大変素晴らしい企画だったと思います。看取り士柴田久美子さん（日本看取り士会 会長）の話を是非お聴きしたい。
- *録音したかった。このような催しをもっとしてはどうか。
- *鶴岡三川にも臨床宗教師の方がふえてくれることを願います。
- *自分の家でもがんでなくなった人いましたので、とても良い話しを聴き、本当に良かったです。
- *御二人の住職さんに来ていただいて、貴重なお話を聞かせていただいて有難うございました。西暦でも生年月日を書いてほしかった。心のケアをする臨床宗教師の仕事がわかりました。傾聴して患者の気持ちをほぐすのは気持ちがすごく落ち着くと思います。最後の傾聴した患者の言葉がリアルでジーンとしました。涙が出そうでした。
- *臨床宗教師初めて知りました。参考になりました。
- *初めて臨床宗教師に関するお話しを伺うことができるととても勉強になりました。コロナ禍で様々なハードルが高くなっていますが、多職種の人が交流して地域の課題や人々の悩みについて話し合う様な機会が数多くあれば良いと思いました。
- *「家族や友人を自死で失い、残された人の心のケア」に関するお話しを伺う機会を設定して頂きたいと思います。
- *来賓あいさつが長かったのもう少し短くしてよいと思います。
- *緩和ケア難しいと思います。考え一つで変わるのでも心をかよわせて勉強しないといけないと思います。
- *和尚様のお話大好きです。
- *「死に向き合う」とか「死の恐怖に悩む人に寄り添う」とはどういうことかが少し感じる事ができた気がします。
- *なかなかこういう話をうかがえる機会がなかったのでとても良かったです。





ご協力ありがとうございました。
南庄内緩和ケア推進協議会